

<基本情報>

所在地：熊本県山鹿市鹿本町

<農場概要>

- 有機JAS認証ほ場58a（イチゴ（うち育苗床13a））
- 平成29年（2017年）に有機JAS認証を取得。



<有機農業に取り組むきっかけ>

- 大学卒業後、海外青年協力隊を経てJICAに就職し、支援活動を通して海外における有機農産物への意識の高さを実感。また、子育てのコミュニティを通して、食の安全安心の大切さを強く意識するようになり、40歳で就農を決意。海外生活で生のイチゴを食べる機会が無かった子供達の「イチゴが食べたい。」の一言でイチゴの有機栽培を目指す。

<販売について>

- 大手スーパー系列の有機農産物ショップを中心に、ネット販売や生協等へ販売。なお、有機農産物ショップとは出荷時期を通して同じ単価で契約し、通常の販売と比べて高単価を実現。
- 令和3年（2021）から海外（アジア）へ輸出。
- 無添加ジャムやスパークリングワイン、冷凍イチゴなどの加工品開発により出荷ロスの削減と有機イチゴのPRを実施。



<消費者等への情報発信について>

- ホームページや「農産物直販サイト」を活用して、消費者との情報交換を実施。
- 有機農業を志す研修生を受け入れ、次世代の農業者を積極的に支援。



<病害虫対策・土づくりなど>

- **病害虫対策**
捕殺に加え、防虫ネットや白マルチの反射利用による害虫の侵入抑制対策（物理的防除）、チリカブリダニやコレマンアブラバチなどの天敵導入及びBT剤やフェロモン剤利用（生物的防除）等を組み合わせ病害虫発生を抑制。
- **土づくり**
阿蘇地域に自生するカヤ（野草）を敷き藁としてほ場の畝間に施用。栽培終了後にすき込み、太陽熱養生処理を行い土壌構造を改善。
- 効率的な生産に適した品種への転換。果形が大粒で果皮が硬い品種「恋みのり」に転換したことで、パック詰めへの労力削減と輸送性が向上。



<経営の課題>

- 更なる収量の増加を目指し、栽培技術を向上。
- より簡易的な有機栽培方法の確立・体系化及び雇用者の確保。

<今後の展開>

- まだ認知度の低いイチゴ有機栽培を広め、栽培の裾野を広げていきたい。また、年齢・能力・性別を問わず多くの人々が活躍できる農園を作ること、農業の魅力を広め、地域農業に貢献していきたい。

【お問合せ先】TEL. 050-1303-4066
ホームページ：http://itofarm.org/